

# まわりみち

2024 August no.21



-Contents-

塾長の活活算数講座

活ママの教えてください？ 算数編

活塾草紙 こどもと落語⑬『抜け雀』



松江算数活塾

このあたりのやりとりがおもしろいことこの上ない。せっかくの売り物の衝立を汚した、と不平たらたらの主人でしたが、絵師が旅立つた翌朝雨戸を開けると、差し込んだ朝日に雀が絵から抜け出していくのを目にします。ここから始まるこの絵の数奇な運命と宿屋夫婦の逆転人生。並みの語り手だとただの奇談で終わりでしょうが、中島敦の文体のごとく、キリッと引き締まった志ん朝の語り口が説得力となつて話の世界に引き込んでいきます。

ところで私は、四十年前に聞いたラジオ以上の『抜け雀』に今もつて出会えないでいます。宿屋夫婦も絵描きもまたその関係性もあの時のものが最高なのです。それは、漠然とした印象からそう言っているではありません。一人一人の具体的な言葉の使い方が違うのです。なぜ、同じ落語家の同じネタで言葉が違うのか。それは、登場人物がその場を生きているからで、単にセリフを語っているのではないから



です。これが一回こっきりの語り芸の本質的なところで、どういう人物が立ち上がってくるかは語ってみたいとわからない。本落語教室生のみならず、しっかりと体に入った話をする時は、そんな感覚をいただいているのではないかと思います。

(宮森健次)

まわりみち 松江算数活塾通信 8月号  
2024年8月1日発行 vol.21(毎月1回発行)

発行・編集／松江算数活塾  
〒690-0883 松江市北田町82-4  
TEL 0852-67-8005 <https://katsujuku.net>

松江算数活塾ご案内



◀ <https://katsujuku.net>



◀ 算数・落語スケジュール



◀ Instagram

## あー夏休み

学校は夏休みに入りました。私  
が勤務している小学校は、9月2日  
が始業式で、いつもの年より少し長  
めの夏休みです。パリオリンピック  
割り増しというところでしょうか。

「あー夏休み」「何とも言えない  
この解放感」と、現役時代には思っ  
ていました。しかし今は、給食も非  
常勤講師収入もゼロなので、暇を持  
て余し、「あー」も、ため息混じり。  
ですが、私の「あー」は、幸せな方  
に分類されます。

というのは、同級生のおばあちゃ  
んの話なのですが、いつもは下の孫  
を保育園に送ってからパートに出か  
け、それが終わると施設のお母さん  
のところに行って、小学生のお兄

ちゃんが帰ってくるまでに家へ帰る  
という毎日だそうです。それが、夏  
休みには、朝から上のお兄ちゃんが  
家にいる。こうなると悲鳴混じりの  
「あー」です。

学童保育があるじゃない、と簡単  
に考えますが、普段行っていないと  
馴染めないらしく、孫に泣かれると  
不憫でたまらない、そのおばあちゃ  
んの気持ち、よくわかります。

私が子どもの頃は、蟬取りも、  
釣りも、野球も、ラジコンも、子ど  
もたちだけでした。親の仕事は、夕  
食近くになっても帰って来ないとき  
にさがし回ることだったと思いま  
す。それも、こつびどく叱られた記  
憶があるので、そんなに頻繁ではな

かったと思います。

今はそんなわけにいきませんよ  
ね。虫捕りに連れてって、図書館に  
連れてって、プールに、映画に、寄  
席に、親もその親もスケジュール作  
成に苦慮しておられると思います。

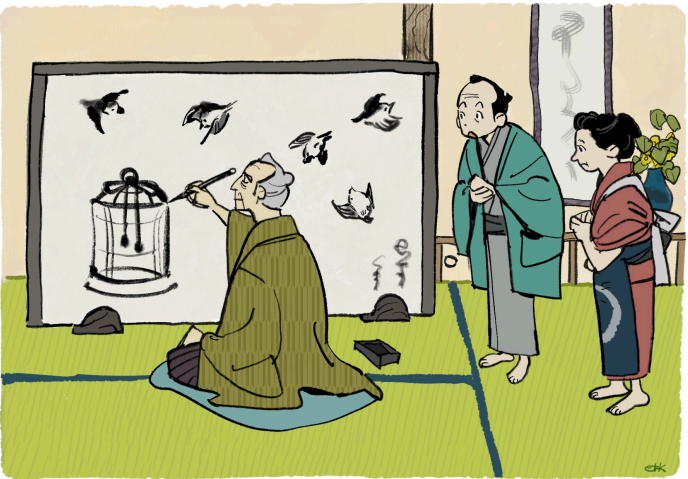
そんな時は、松江算数活塾の北  
田町教室を気分転換に入れてくださ  
い。多少、年寄り話に付き合ってい  
ただきたいですが、セールスはいた  
しませんのでご安心ください。うれ  
しいことに、同級生のおばあちゃん  
もお孫さんを連れて寄ってくれま  
す。買い込み過ぎたオレンジジュ  
ースを減らすのにご協力いただける  
うれしいです。

赤ちゃん同伴でも、大人だけ  
も、どなた様でも大歓迎です。あー  
夏休み。暑中お見舞い申し上げます。  
(川上直久)

## 活塾草紙

### こどもと落語⑭

# 抜け雀



名人が登場する話といえば、真つ先に思い浮かぶのが中島敦のそ  
の名も『名人伝』。天下第一の弓の名人を志した紀昌の成長物語。  
何度読んでも飽きることはない無類のおもしろさで、若かりしころ  
は、講談調にして教室で語ったものでした。道具立てとしては今の  
ヒーローものとそれほど変わりはないと思いますが、中島敦の格調高  
い美文が説得力となって夢の世界に誘ってくれます。

落語の中にも名人が登場する話は数多くあつて、左甚五郎はじめ  
有名無名さまざまな名人たちの逸話が語り継がれています。落語の  
名人ものは、作品に命をふきこむことができる、という点で共通し  
ています。木彫りのねずみが動く、大黒さまがニツと笑う、竹の水仙  
が咲く、というように。落語ばかりでなく、雪舟が涙で描いたねず  
みや絵姿女房やこの手の話は古来から枚挙に暇がありません。あり  
得ない話というのはわかっていてもあり得るかもしれないと思わせて  
くれる語りや文体を昔から人は大切にしてきた、ということなのかも  
しれません。

『抜け雀』は、数ある名人ものの中で、私がいちばん好きな話です。  
厳密に言うと、古今亭志ん朝のそれでないといけません。さらに厳密  
にすると、四十年以上前にFMラジオで聞いたそれをもっていちばん  
としています。一文無しで旅をしていた絵師が宿銭のかたに衝立に  
雀の絵を描きます。これは、いやがる宿屋の主人を脅しつけて無理  
矢理描くのですが、志ん朝の造形する宿屋夫婦がまさに名人芸で、